7．たな卸資産の評価基準及び評価方法
　評価基準　低価法
　評価方法　主として移動平均法
　なお、医薬品及び診療材料については、当分の間、評価方法は最終仕入原価法によっております。
8．外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準
　外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
9．機会費用の計上方法
⑴　国等の財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計算方法
　土地、建物については、賃借料金の近隣相場を参考に計算しております。
⑵　政府出資等の機会費用の計算に使用した利率
　新発10年国債の平成24年３月末利回りを参考に0.985％で計算しております。
10．リース取引の会計処理
　リース料総額が3,000千円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
11．消費税等の会計処理
　消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税込方式を採用しております。
（重要な会計方針の変更）
　従来、運営費交付金収益及び授業料収益の計上基準として、退職一時金については費用進行基準を、「特別経費」及び「特殊要因経費」に充当される運営費交付金の一部については業務達成基準又は費用進行基準を採用しその他については期間進行基準を採用しておりましたが、平成23事業年度よりプロジェクト研究等の一部に充当される運営費交付金については業務達成基準を適用しております。
　この変更は、業務達成基準に関する取扱要領の制定に伴い実施されるものであり、客観的に業務の達成度が把握可能なプロジェクト研究等については、その業務費支出と運営費交付金から得られる効果についての対応関係をより明確化するために行ったものであります。
　この結果、従来の方法によった場合に比べ運営費交付金収益は468,284,600円減少し、経常利益、当期純利益及び当期総利益はそれぞれ同額減少しております。

注　記　事　項

Ⅰ．貸借対照表関係
１．独立行政法人国立大学財務・経営センターからの借入金2,809,405,000円に対し、土地5,736,733,789円を担保に提供しております。
２．当事業年度末の債務保証残高は、6,697,685,062円であります。
３．運営費交付金から充当されるべき退職給付引当金見積額は、13,138,707,288円であります。
４．運営費交付金から充当されるべき賞与引当金見積額は、1,137,550,694円であります。
５．利益剰余金のうち、法人移行時における固有の会計処理に起因するものは下記のとおりであります。
①　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元金償還額の累計	12,649,224,990円
当該借入金により取得した資産の減価償却費の累計	4,034,358,437円
利益剰余金に与える影響額（差引き）	8,614,866,553円

②　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの
　法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額の累計　1,079,503,144円
③　国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる未収附属病院収入のうち、国からの出資でなく譲与としたことによるもの　393,414,192円
④　国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる医薬品及び診療材料について、国からの出資でなく譲与としたことによるもの　105,984,406円
　10,193,768,295円

Ⅱ．損益計算書関係
１．当期総利益のうち、法人移行時における固有の会計処理に起因するものは下記のとおりであります。
①　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元金償還額	1,366,887,249円
当該借入金により取得した資産の減価償却費	484,821,773円
当期総利益に与える影響額（差引き）	882,065,476円

②　国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの
　法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額　825,173円
　882,890,649円

Ⅲ．キャッシュ・フロー計算書関係
１．資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	8,751,136,319円
定期預金	△ 4,700,000,000円
資金期末残高	4,051,136,319円

２．重要な非資金取引
⑴　現物寄附の受入による資産の取得

構築物	14,320,387円
機械装置	800,000円
工具器具備品	164,590,880円
図書	8,287,560円
ソフトウェア	1,008,750円
合計	189,007,577円

⑵　ファイナンス・リースによる資産の取得

工具器具備品	134,782,198円
合計	134,782,198円

Ⅳ．国立大学法人等業務実施コスト計算書関係
　引当外退職給付増加見積額のうち、国又は地方公共団体からの出向職員に係る引当外退職給付増加見積額は、86,946,476円です。
Ⅴ．減損会計関係
　該当事項はありません。
Ⅵ．重要な債務負担行為
　平成24年３月31日現在の重要な債務負担行為は以下のとおりです。

（単位：円）

件　名	契　約　額	うち翌期以降支払額
山口大学（吉田）植物工場実証施設新営工事（前金払）	10,363,500	6,218,100